



研究の現場から

『道德科学の論文』抜粋案の検討と 記述内容の研究

道德科学研究所 客員教授
共同研究代表者

こやま たかまさ
小山 高正

『道德科学の論文』(以下『論文』)は公刊されてから百年近く、常にわれわれモラロジアの心のよりどころとして読み継がれてきました。その間、著者・廣池千九郎による改訂増補を含め、いくたびか改訂されてきました。一番大きな改訂が昭和六十〜六十三(一九八五〜八八)年の『新版 道德科学の論文』でした。内容については、時代性の観点から一部改められ、表記も現代かなづかいになりました。引用された漢文も読み下し文になり、翻訳は読みやすく改められました。

しかし、それでも『論文』は三千頁を超えるボリュームがあり、何かと忙しい現代生活の中で読み通すのは

容易なことではありません。当財団では、論文講座用テキストとしてさらに読みやすくすることを考え、四年前に検討委員会を起ちあげました。道德科学研究所(以下道科研)からも五名のメンバーが参加し、①受講者の理解がより深められるよう、②講師が要点を整理して講義できるよう、③受講者・講師ともに『論文』の魅力を味わえるように、『論文』一四章と一五章からの要点を抜粋し小見出しをつける作業を始めました。それをもとに現在、講座テキストとして使われている『品性をつくる人間学』三冊本が作られました。

委員会は昨年解散しましたが、参加委員の多くから、『論文』一冊目〜六冊目についても道科研でこの抜粋作業を進めてほしいという要望が出されました。その後、道科研所長と参加委員の六名で検討の上、これを道科研の共同研究プロジェクトとして

行うことが決まり、新たに『新版 道德科学の論文』抜粋案の検討と記述内容の研究」という研究グループが発足しました。現在のところ、一冊目の自序文〜第三緒言、それに第一章と第二章が済んだところです。これから取り組む第三章〜十一章は科学的研究が中心となる基礎論、第二章は聖人研究、第一三章は皇室研究となっています。これらの箇所は、引用文も多く、これまでの抜粋作業とは異なった視点からの検討も必要です。道科研研究員全員の力を借りながら、より深い内容検討をしていきたいと考えています。

『論文』九冊の抜粋作業と内容検討が終了した折には、皆さまからのご意見を参考にしながら、それらを資料としてまた新しい形の『論文』研究会が始められるのではないかと期待しています。どうかご注目ください。